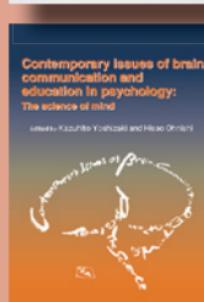


著書紹介

Academic Library

著者自らが新刊を紹介します。



「自殺論」(ジョン・ダン著)

文学部特任教授 久野幸子(共訳)

- ▶ A5判/333ページ/英宝社/3,800円+税/2008.7.31発行
- ▶ 17世紀初頭、英国の文人ジョン・ダンが当時の自殺觀を再検討した作品を本邦初訳したもの。彼はこの著で自殺を断罪する法の矛盾を自然法、国法、教会法に則して論証し、法の不寛容を暴いている。

「黒澤明を観る—民の論理とスーパーマン」

文化創造学部教授 吉村英夫

- ▶ 変型B5判/279ページ/草の根出版会/2,200円+税/2008.8.1発行

▶ 本学での講義を中心にした「講義録」。黒澤明映画を鑑賞しての学生の感想文を折り込んでいる。10年間の授業記録でもある。「生きる」「七人の侍」等々が世界映画史を飾る傑作であることを説く。

「ヒューマニスティック・サイコセラピー ケースブック1」

コミュニケーション学部教授

後藤秀爾(伊藤義美編の1冊の第3章を分担執筆した)

- ▶ A5判/156ページ/ナカニシヤ出版/2,500円+税/2008.9.1発行

▶ 9つの立場から、9つの事例報告をまとめた心理療法の啓発書。著者の分担章(第3章:P41~56)では、発達障害のある子どもとのプレイセラピーの過程を紹介した。

「非営利放送とは何か—市民が創るメディア」

現代社会学部准教授 小川明子(共著)

- ▶ A5判/280ページ/ミネルヴァ出版/2,800円+税/2008.9.20発行

▶ 環境や人権、地域の問題など、これまでマスメディアが救いきれなかった人びとの切実な声をどう伝えていくのか。国内外で広がりを見せつつある非営利組織による放送局の現状を紹介し、その可能性と課題から今後のメディア社会のありようを展望する。

「MURAKAMI 龍と春樹の時代」

文化創造学部教授 清水良典

- ▶ 新書/276ページ/幻冬舎/840円+税/2008.9.30発行
- ▶ 現代文学の二巨頭、村上龍と村上春樹の代表作を、時代背景とともに対比しながら読み直し、時代と直面したメッセージを「セッション」のように二人が交換している様を浮き彫りにした本です。

「文学の未来」

文化創造学部教授 清水良典

- ▶ 四六判/316ページ/風媒社/2,000円+税/2008.12.20発行
- ▶ 小説やエッセイというジャンルを超えた、純粋な文章表現の領域を<純文章>と名づけ、ジャンル横断的な文章の魅力と価値を論じながら、近現代文学のさまざまな作品をそのヴィジョンから発見しなおした評論集です。

「Contemporary issues of brain, communication and education in psychology: The science of mind」

コミュニケーション学部教授 吉崎一人(共編)

Yoshizaki,K., & Ohnishi,H.(Eds.)

- ▶ A5判/290ページ/Union Press/4,500円+税/2008.12発行

▶ 心理学研究のなかで最近話題となっている16研究からなる。執筆者の多くが日本人であるため、日本社会が抱える問題に対する心理学的研究が多い。たとえば、注意・言語のagingを測定する心理テストの開発や、携帯端末でのコミュニケーションがひきおこす誤解についての検討などである。